



News Release

平成 26 年 1 月 20 日

各 位

会社名 栄研化学株式会社
代表者名 代表執行役社長 寺本 哲也
コード番号 4549 東証1部

栄研化学と FIND、LAMP法を利用した遺伝子迅速検査法で 新たにシャーガス病の共同開発の契約を締結

栄研化学株式会社(本社：東京都台東区、以下 栄研化学)と FIND (Foundation for Innovative New Diagnostics、本部：ジュネーブ) は、この度、LAMP 法を利用したシャーガス病の簡易・迅速診断法の共同開発契約を締結しました。これは、栄研化学と FIND との LAMP 法を利用した結核、マラリア、アフリカ睡眠病、リーシュマニア症の簡易・迅速診断法の共同開発の延長であります。

シャーガス病は、クルーズトリパノソーマ原虫が寄生することで引き起こされる疾患であり、原虫はサシガメ類昆虫の糞便中に存在し、サシガメの刺創や擦創から原虫がヒトに感染します。また、輸血、垂直感染（母子感染）、臓器移植、実験室事故でも感染が報告されています。

感染者は全世界で 800 万～1,100 万人いますが、その大部分はメキシコ、中央および南アメリカ地域で発生している風土病であり、顧みられない病気の一つとなっています。さらに中南米地域からの移民の増加が背景にあり、他の大陸にも広がりがみられており、シャーガス病対策が課題となっております。

日本においては、中南米地域からの定住者が約 30 万人おり、輸血による感染を防ぐことを目的として、中南米に 4 週間以上の滞在をした方を含めて、2012 年 10 月から献血受付時の問診を実施し、安全対策を講じています。

シャーガス病は、感染後の早期に治療を開始すれば、ほぼ 100% 治癒しますが、ほとんどが無症状か軽度であり、持続感染者は心筋障害が進行し、突然死や心不全を来すことがあります。このため特に、感染した母親から生まれた新生児のスクリーニング検査が重要であり、生後 2～3 週間以内に検査を行うことが推奨されています。

新生児のシャーガス病の診断には、抗体検査が母親の抗体が存在するためにできず、また、顕微鏡法では感度が低く十分な信頼性が得られないため、簡易・迅速な遺伝子検査が求められています。

栄研化学と FIND は、LAMP 法を利用した結核検査法をベースとして、新生児のシャーガス病の簡易・迅速な遺伝子検査法の開発に合意し、共同開発を開始いたします。

以上

本件に関するお問い合わせ先

栄研化学株式会社 広報部

TEL:03(5846)3379 、 FAX:03(5846)3476 、 e-mail:koho@eiken.co.jp

ホームページ <http://www.eiken.co.jp>